

演題 11. 報告時間短縮を目的としたトロンビン添加採血管の検討

○佐久間幸枝 石田良恵 寺島美佐子 日色順子 岩井利恵 佐藤文美 高橋英則（総合病院国保旭中央病院中央検査科）

【目的】当科では積極的に外来診療前検査を取り入れてきたが、診療前検査を行うことで患者待ち時間が延長しては満足度の向上には繋がらない。従って報告時間の短縮を目的としてトロンビンを添加した分離剤入り真空採血管（以下 AR）と従来採血管である分離剤入り真空採血管（以下 AS）との比較検討を行ったので報告する。

【方法】当院救命救急センター及び外来受診者 160 名を対象に AR と AS を同時に採血し、直後に転倒混和を行い、完全凝固を確認後 3,000rpm5 分間遠心し血清分離を行い、以下について検討した。①AR と AS の相関：生化学及び免疫血清検査 64 項目を測定し、単回帰分析を行った。②血液凝固時間：当科職員 5 名を対象に AR と AS を同時に採血し、5 分静置後 3,000rpm5 分間遠心し凝固の状態を確認した。

【結果】①AR と AS の相関：生化学 41 項目、ホルモン 9 項目、腫瘍マーカー 9 項目、蛋白分画 5 項目の相関係数は 0.9 以上であった。②血液凝固時間：AR では分離が不完全な検体は無かったが、AS はすべての検体の分離が不完全であった。

【考察】AR と AS の相関を検討した 64 項目について、良好な相関が得られた。また凝固時間の検討結果から AR は AS に比較して、凝固時間を短縮することが可能であると思われた。

【結論】報告時間短縮を目的としたトロンビン添加採血管の検討を行った。AR を診療前検査に用いることで、検査値は従来と変わることなく、検査結果の報告時間を短縮することができる可能性が示唆された。今後は感染症項目や免疫グロブリン等についても検討を行い採血量の軽減を目指していきたいと考えている。

連絡先：(0479)63-8111(内線 5128)